RA協議会での取組み
ー新たな学際研究を導くポストアワードカー

早稲田大学
リサーチイノベーションセンター研究戦略部門
丸山浩平

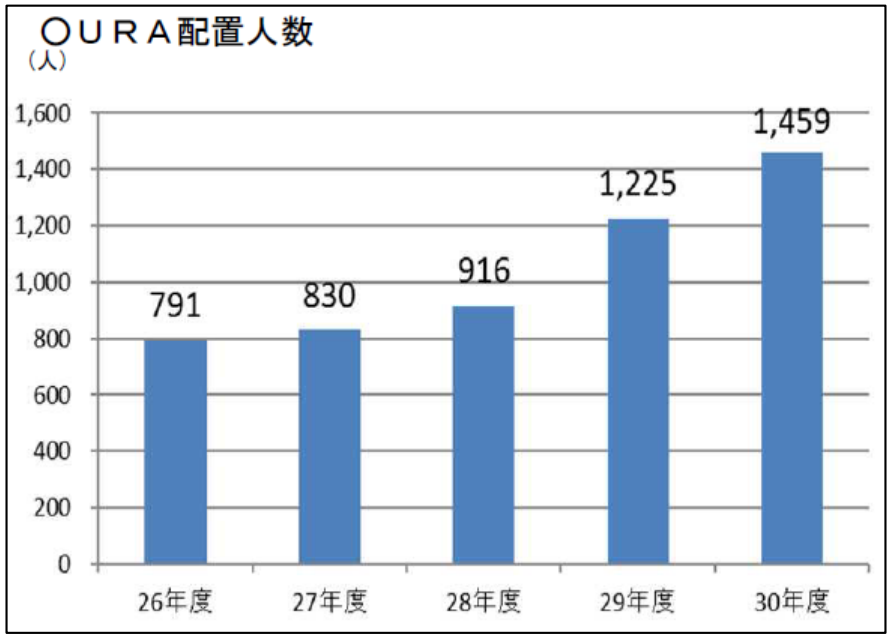
発表内容

- 若手研究者の独立・異動にともなう早期の研究環境整備、新たな学際研究の創出などの研究力向上改革として、また、国レベルでの競争的研究資金の効果的な活用としても、研究設備・機器の共用が大きく取り上げられている。
- 大学等のURAが自らのミッションを実行するため、これらの研究設備・機器の共用について、どう取り組めばいいのか、RA協議会の年次大会セッション（９月）で議論した内容を報告する。

リサーチ・アドミニストレーター協議会（RA協議会）

- リサーチ・アドミニストレーター（RA）協議会の設立目的

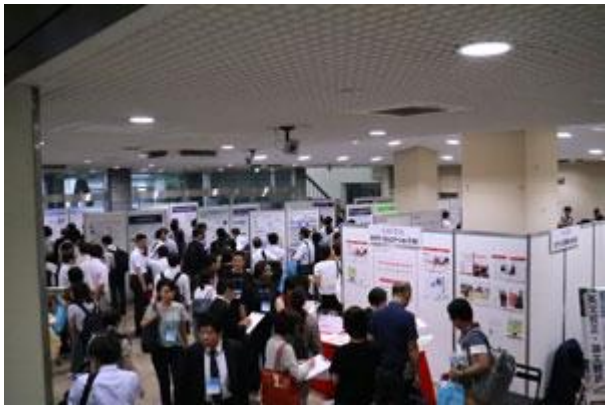
RA協議会は、大学、高等専門学校、大学共同利用機関、独立行政法人、地方独立行政法人、特殊法人その他公的な研究機関（以下「大学等」という。）が取り組んでいるリサーチアドミニストレーションの組織等の定着・展開に向けて、リサーチアドミニストレーション人材の育成・能力向上、課題の共有・解決のための検討等について情報交換を行うことを通じ、我が国の大学等の研究力強化に貢献し、学術及び科学技術の振興並びにイノベーションに寄与することを目的としています。



＊出展：　平成30年度　大学等における産学連携等実施状況について（文部科学省）

RA協議会第5回年次大会　2019年9月3日、4日　@　電気通信大学

全国から686名（185機関）のURA等が集まり、大小45件のセッション、19件の口頭発表、50件のポスター発表、4件のブース展示のほか、1日目夕方には情報交換会も催されるなど、リサーチアドミニストレーション業務に関する情報・人的交流が行われた。



機関分類	参加者数	機関数
国立大学	355 名	58
私立大学	121 名	40
公立大学	31 名	8
省庁	8 名	2
法人（国系）	51 名	14
研究所等（国系）	19 名	6
財団法人／社団法人	15 名	12
民間企業	71 名	32
海外大学／海外機関	12 名	10
地方公共団体	1 名	1
その他	2 名	2
合計	686 名	185

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
首都大学東京

RA協議会第5回年次大会：大学セッション「新たな学際研究を導くポストアワード力」

2019年9月4日

首都大学東京　田中有理　（組織会員）
同志社大学　石田貴美子　（個人会員）
早稲田大学　丸山浩平　（個人会員）

本セッションの目的

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
首都大学東京

1. なぜ施策に研究設備・機器共用の話が常に入っているのか？を文科省の担当者より直接お話しいただく（共同と共用の違いについても）
2. 自然科学研究機構で実施している具体的な研究設備・機器共用の取り組みとその課題についてお話しいただく
3. 実際に公募要領等に文言を入れているファンディングエージェンシー(FA)側にも登壇いただき、研究設備・機器共用についてどう考えているのか？また、大学等が新たな学際研究(これまでにないような研究)を生み出すことの期待についてお話しいただく
4. 研究設備・機器共用を実際に活用していく若手研究者から、学際研究を実施するための取り組みや、こんなことが必要、URAにはこんなことをしてもらいたい、という学際研究のための取り組みについてお話しいただく

上記を受けて、フロアとともに、実際に今、我々URAには何ができるか？どうすれば活用できるのか？など、ディスカッションを深める

セッション目次（仮）2019年9月4日（水）

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
首都大学東京

1. 趣旨説明（5分間）13:50-13:55

2. 登壇者講演（各10-15分間）13:55-14:50
   1. 文部科学省研究振興局学術機関課 吉居 真吾 課長補佐
   2. 自然科学研究機構分子科学研究所 大原 三佳 特任研究員
   3. 国立研究開発法人科学技術振興機構 波羅 仁 調査役
   4. 九州工業大学大学院生命体工学研究科 川原 知洋 准教授

3. フロアディスカッション（25分間）14:50-15:15

4. まとめ（5分間）15:15-15:20

セッション企画の背景①

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
首都大学東京

① 競争的資金などの公募要領にも記載の通り、国の施策の中に研究設備・機器共用の話は常に盛り込まれる

JST・CREST公募要領

8.12 研究設備・機器の共用促進について

「研究成果の持続的創出に向けた競争的研究費改革について（中間取りまとめ）」（平成27年6月24日 競争的研究費改革に関する検討会）においては、そもそもの研究目的を十全に達成することを前提としつつ、汎用性が高く比較的大型の設備・機器は共用を原則とすることが適当であるとされています。

また、「研究組織のマネジメントと一体となった新たな研究設備・機器共用システムの導入について」（平成27年11月科学技術・学術審議会先端研究基盤部会）にて、大学及び国立研究開発法人等において「研究組織単位の研究設備・機器の共用システム」（以下、「機器共用システム」といいます。）を運用することが求められています。

これらを踏まえ、本事業により購入する研究設備・機器について、特に大型で汎用性のあるものについては、他の研究費における管理条件の範囲内において、所属機関・組織における機器共用システムに従って、当該研究課題の推進に支障ない範囲での共用、他の研究費等により購入された研究設備・機器の活用、複数の研究費の合算による購入・共用などに積極的に取り組んでください。なお、共用機器・設備としての管理と当該研究課題の研究目的の達成に向けた機器等の使用とのバランスを取る必要に留意してください。

また、上述の機器共用システム以外にも、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所において全国的な設備の相互利用を目的として実施している「大学連携研究設備ネットワーク事業」や各国立大学において「設備サポートセンター整備事業」等により構築している全学的な共用システムとも積極的に連携を図り、研究組織や研究機関の枠を越えた研究設備・機器の共用を促進してください。

科研費・新学術領域研究の目的

学術変革領域研究	
（A）	
○多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究。	○

→→→競争的資金の採択に研究設備・機器共用の話が反映される仕組みがないのでは！？
（実際の審査項目として、採択のキーになっていない！？）
→→→実質、申請書に上記しくみを組み入れようなどと考えている研究者やURAもほとんどいない！？

セッション企画の背景②

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
首都大学東京

② 研究設備・機器の共用についてはこれまで様々な議論があるが、以下がその成果とされている

- 我が国における学術研究のナショナルセンター・ハブ的機能
- **学術研究水準の維持・向上**
- 学術研究の**ボトムアップ型研究体制の構築**への貢献
- 学術研究の大型プロジェクトの推進

これらはURAの機能とも重なる部分がある！！！

プレアワードにつながるポストアワードが重要では？！

URAとして研究設備・機器共用の推進（＝機関を超えた分野融合研究や学術研究水準の向上）にどう関与していけるのか、を考えるきっかけになるのでは？

セッション企画の背景③（データ未作成）

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
首都大学東京

③　日本の研究力（論文の観点から）の相対的地位は下がる一方

研究力向上改革2019

- 研究設備・機器や拠点の活用で浮いたお金を若手研究者の雇用に使うなどしていくことで研究力を強化することにもつながるのではないか？
- 若手研究者による新たな学際研究の推進に、URAが関与できるのではないか？

R1.9.4　RA協議会 第5回年次大会（於：電気通信大学）

共同利用・共同研究体制について

文部科学省研究振興局学術機関課

RA協議会第5回年次大会　2019年9月4日

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
分子科学研究所（分子研）

全国的な共同機器
ー取り組みとこれまでの実績ー

大学連携研究設備ネットワーク
ナノテクノロジープラットフォーム（分子・物質合成プラットフォーム）

分子科学研究所・機器センター
大原　三佳

新たな学際研究を導くポストアワード力

科学技術振興機構情報基盤事業部　調査役　波羅　仁

（国際事業（SICORPなど）5年間、戦略事業（CREST、さきがけなど）7年間、経営企画部1年間、2019年から現職。
戦略事業（主にCREST・さきがけ）ではプログラムの制度設計など。
CRDSプロポーザルチームへの参加も。

アウトライン

1. 文部科学省における最近の議論の紹介
2. JSTにおける取り組み
3. 機器に付与されるID
4. 問題提起

RA協議会第5回年次大会
「新たな学際研究を導くポストアワード力」
2019年9月4日

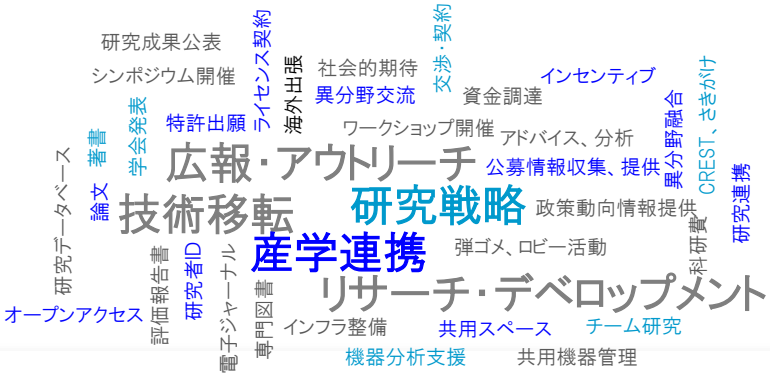
川原　知洋
准教授
大学院生命体工学研究科
九州工業大学

Kyutech Kyushu Institute of Technology　SMART Integration Lab.

想定される疑問点

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
首都大学東京

- そもそも研究設備・機器共用とは？拠点とは？
- 拠点や研究設備・機器共用とその有効性とは？
- 研究設備・機器共用とURAとの関係性や、URAにとっての利点とは？
- 研究者へのメリットをどう伝えるのか？
- 研究者で拠点や研究設備・機器共用を活用しまくっている研究者や大学は存在するのか？いるとしたらどのような人々なのか？
- 研究者は何を求めているのか？どうすればもっと積極的に拠点や研究設備・機器共用を実施・使うようになるのか、そのためにURAが出来ることとは何か？
- 日本の学術界、あるいはURAにとっての影響は？
- 拠点や研究設備・機器共用によって機関を超えた学際融合研究は生まれるのか？
- URAは、既に国等が整備した拠点や研究設備・機器共用の仕組みと、自大学の研究者をどうつなぐことが出来るのか？



?

kmaruya@aoni.waseda.jp

早稲田大学　丸山浩平